

さくら市の統一的な基準による財務書類（令和元年度 一般会計等）概要

令和元年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）			
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	311億6,164万円	1 固定 負債	(1) 地方債	139億2,630万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	352億2,142万円		(2) 退職手当引当金	19億8,800万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	2億5,422万円		(3) その他の固定負債	0
	(4) 投資その他の資産	58億6,915万円	2 流動 負債	(1) 賞与等引当金	1億4,589万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	13億1,284万円	(2) その他の流動負債	19億869万円	
	(2) 基金、未収金など	37億1,869万円	負債合計	179億6,888万円	
資産合計		775億3,797万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
			純資産合計	595億6,908万円	
			負債及び純資産合計	775億3,797万円	

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	13億7,810万円
本年度資金収支額	△1億794万円
1 業務活動収支	
税収、国県等補助金、人件費など	13億2,223万円
2 投資活動収支	
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△7億8,359万円
3 財務活動収支	
地方債等発行、償還など	△6億4,658万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	4,267万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	13億1,284万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	599億3,578万円
本年度変動高	△3億6,670万円
△純行政コスト	△155億7,491万円
財源	
(市税、地方交付税、 国・県補助金)	152億312万円
無償所管換等	509万円
その他	0
本年度末純資産残高	595億6,908万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和2年3月31日現在人口 44,018人）

資産 = 176万円 負債 = 41万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 76.8%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 57.6%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※令和元年度末現在： 償却資産取得価額等： 1,023億6,477万円 減価償却累計額： 589億6,340万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 30.2%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和元年度財政運営の総括

① 業務活動収支 13億2,223万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △7億8,359万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △6億4,658万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和元年度の資金収支は

前年度資金残高との合計は 13億1,284万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	162億7,677万円
人件費	
人件費、退職手当引当金繰入など	25億2,699万円
物件費等	
物件費、減価償却費、維持補修費など	58億7,991万円
その他の業務費用	
支払利息など	2億9,520万円
移転費用	
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	75億7,467万円
経常収益	6億4,258万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	156億3,419万円
臨時損失 災害復旧費など	8,012万円
臨時利益 資産売却益など	1億3,940万円
純行政コスト (純経常行政コスト＋臨時損失－臨時利益)	155億7,491万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（R01決算）

	さくら市	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	－	13.24
連結実質赤字比率 (%)	－	18.24
実質公債費比率 (%)	7.3	25.00
将来負担比率 (%)	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

さくら市の統一的な基準による財務書類（令和元年度 全体会計）概要

令和元年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	311億6,164万円	1 固定負債 (1) 地方債 244億4,071万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	588億8,075万円	(2) 退職手当引当金 20億1,055万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	22億6,001万円	(3) その他の固定負債 74億7,991万円
	(4) 投資その他の資産	44億5,639万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 1億5,494万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	36億9,437万円	(2) その他の流動負債 28億6,459万円
	(2) 基金、未収金など	51億839万円	負債合計 369億5,070万円
資産合計 1,055億6,155万円		負債及び純資産合計 1,055億6,155万円	
		純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
		純資産合計 686億1,085万円	

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和2年3月31日現在人口 44,018人）

資産 = 240万円 負債 = 84万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 65.0%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）・・・ 50.1%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※令和元年度末現在： 償却資産取得価額等： 1,352億833万円 減価償却累計額： 676億8,478万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）・・・ 53.9%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和元年度財政運営の総括

① 業務活動収支 23億3,826万円 ⇒ 堅調な財政運営
 ② 投資活動収支 △16億5,785万円（基金積立、資産形成）
 ③ 財務活動収支 △7億4,165万円（将来世代の負担の軽減）
 ①～③の合計である令和元年度の資金収支は

前年度資金残高との合計は 36億9,437万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	37億1,293万円
本年度資金収支額	△6,123万円
1 業務活動収支	
税金、国県等補助金、人件費など	23億3,826万円
2 投資活動収支	
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△16億5,785万円
3 財務活動収支	
地方債等発行、償還など	△7億4,165万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	4,267万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	36億9,437万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	687億3,018万円
本年度変動高	△1億1,931万円
△純行政コスト	△229億9,733万円
財源	
(市税、地方交付税、国・県補助金)	227億5,214万円
無償所管換等	509万円
その他	1億2,079万円
本年度末純資産残高	686億1,086万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	248億3,831万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	26億7,844万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	72億6,978万円
その他の業務費用 支払利息など	6億3,272万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	142億5,736万円
経常収益 (経常費用－経常収益)	17億8,506万円
純経常行政コスト	230億5,325万円
臨時損失 災害復旧費など	8,348万円
臨時利益 資産売却益など	1億3,941万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	229億9,733万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（R01決算）

	さくら市	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	－	13.24
連結実質赤字比率 (%)	－	18.24
実質公債費比率 (%)	7.3	25.00
将来負担比率 (%)	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

さくら市の統一的な基準による財務書類（令和元年度 連結会計）概要

令和元年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）			
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	374億5,473万円	1 固定 負債	(1) 地方債	253億7,094万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	588億8,075万円		(2) 退職手当引当金	23億3,440万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	24億4,980万円		(3) その他の固定負債	74億7,991万円
	(4) 投資その他の資産	53億3,506万円	2 流動 負債	(1) 賞与等引当金	1億9,217万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	39億7,997万円	(2) その他の流動負債	29億9,371万円	
	(2) 基金、未収金など	55億5,287万円	負債合計	383億7,113万円	
資産合計		1,136億5,317万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
			純資産合計	752億8,204万円	
			負債及び純資産合計	1,136億5,317万円	

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和2年3月31日現在人口 44,018人）

資産 = 258万円 負債 = 87万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）・・・ 66.2%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）・・・・・・ 48.7%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※令和元年度未現在： 償却資産取得価額等： 1,436億3,848万円 減価償却累計額： 700億2,076万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）・・・・・・ 51.0%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和元年度財政運営の総括

① 業務活動収支 32億5,370万円 ⇒ 堅調な財政運営
 ② 投資活動収支 △31億7,886万円（基金積立、資産形成）
 ③ 財務活動収支 △1億6,580万円（将来世代の負担の軽減）
 ①～③の合計である令和元年度の資金収支は

前年度資金残高との合計は 39億7,997万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	40億2,237万円
本年度資金収支額	△9,097万円
1 業務活動収支	
税収、国県等補助金、人件費など	32億5,370万円
2 投資活動収支	
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△31億7,886万円
3 財務活動収支	
地方債等発行、償還など	△1億6,580万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	4,270万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	39億7,997万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	740億8,736万円
本年度変動高	11億9,468万円
△純行政コスト	△262億6,521万円
財源	
(市税、地方交付税、 国・県補助金)	273億251万円
無償所管換等	509万円
その他	1億5,229万円
本年度末純資産残高	752億8,205万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	290億7,081万円
人件費	
人件費、退職手当引当金繰入など	33億3,406万円
物件費等	
物件費、減価償却費、維持補修費など	84億7,784万円
その他の業務費用	
支払利息など	7億3,876万円
移転費用	
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	165億2,016万円
経常収益	27億6,564万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	263億517万円
臨時損失 災害復旧費など	1億289万円
臨時利益 資産売却益など	1億4,286万円
純行政コスト (純経常行政コスト＋臨時損失－臨時利益)	262億6,521万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（R01決算）

	さくら市	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	－	13.24
連結実質赤字比率 (%)	－	18.24
実質公債費比率 (%)	7.3	25.00
将来負担比率 (%)	－	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。